

1 歳代の表出語彙の発達

— 品詞による分析；名詞 —

藤原 雅子 笠井 新一郎 今給黎 禎子 安川 千代 松山 光生 飯干 紀代子
山田 弘幸 倉内 紀子

Vocabulary Development in Children aged 12-23 Month - Correlation of Noun -

Masako FUJIWARA Teiko IMAKIIRE Chiyo YASUKAWA Mitsuo MATSUYAMA Kiyoko IIBOSHI
Hiroyuki YAMADA Shinichiro KASAI Noriko KURAUCHI

Abstract

In the present study, we analyzed the "vocabulary checklist" of 310 children aged 12-23 months. We focused on the relationship between age and the size of the noun vocabulary that children have acquired, what word category is acquired earliest, and the relationship between the sequence of vocabulary acquisition and age.

The results showed that (1) the proportion of nouns was comparatively high in the vocabularies of all children, (2) the number of nouns that have been acquired increases with age, and (3) the word category that is closely related to the daily life of a child and expresses "things", such as "animals", "people", and "food and drink", is used most frequently.

These results indicate that environmental factors influence vocabulary acquisition. Therefore, it is necessary to statistically examine the use of baby talk. Moreover, in addition to the expression of vocabulary, it is also necessary to examine the understanding of vocabulary.

Key words : vocabulary development, part of speech, noun, category, a high frequency word

キーワード : 語彙発達, 品詞, 名詞, カテゴリー, 高頻度語

2006. 1. 18 受理

I. はじめに

子どもの語彙発達において、初期にどのような語が獲得されるかは、語彙獲得が人間の普遍的・生得的に有する制約、言語構造、言語入力が複雑に絡み合い進行していく過程である。

筆者らは、1歳0か月から1歳11か月の子どもの表出語彙の調査を行ない、各年齢における平均表出語彙数と、品詞別語彙数、性差について報告した¹⁾。その結果、年齢と語彙数は相関が高く、品詞別語彙数では名詞の表

出語彙に占める割合が高いという特徴が見出された。性差については1歳代を通して女兒優位の傾向が認められた。

子どもが初期に獲得する語彙において名詞が優位であることはさまざまな研究で見いだされている^{2) 3)}。ここでのいう優位とは頻度が高いという意味と早期に獲得されるという2つの意味が含まれている。

この問題を最初に取り上げた Gentner は、英語、ドイツ語、日本語、カルリ語、標準中国語、トルコ語の6か国の子ども16名のデータを提出し、初期の子どもの語

彙で名詞が優位であるのは普遍的な現象であると報告している。名詞は他のカテゴリーと比べ、より単純で、より基本的な“具体的概念”であるため、獲得しやすいとしている⁴⁾。

このような研究をふまえると、初期の言語発達を把握するためには、語彙数のみならず、品詞特徴についても検討することが必要であると考えられる。

語彙は言語発達段階の指標として用いられることより1歳代の語彙発達段階を把握し、語彙数や語彙の品詞特徴について検討することは乳幼児健診への応用を検討する際、また、言語聴覚障害を持つ子どもへの訓練語彙を検討する際、重要な意味を持つと考えられる。

本稿では品詞の中でも1歳代で表出される割合が高かった名詞に着目し、初期に獲得される名詞はどのようなカテゴリーであるのか、またどのような語彙であるのかを明らかにするための分析を行なった。

II. 方法

1. 対象および調査方法

A県の保育所に通所している1歳0か月～1歳11か月児の養育者、377名に語彙チェックリストへの記入を依頼した。養育者には担当保育士を通じて同意を得た。

表1 調査対象児の年齢分布

生活年齢	男	女	合 計
1:0	9	10	19
1:1	10	11	21
1:2	9	13	22
1:3	11	16	27
1:4	14	7	21
1:5	12	16	28
1:6	15	17	32
1:7	17	18	35
1:8	12	12	24
1:9	17	13	30
1:10	15	14	29
1:11	9	13	22
合 計	150	160	310

チェックリストは無記名で、基礎情報として対象児の年齢、生年月日、性別を記載してもらった。記載不備などにより使用できなかったものを除いた310名分（男児150名、女児160名）を集計し、分析した。

対象児数は、最も人数の少ない年齢が1歳0か月の19名で、最も多い年齢は1歳7か月の35名であった。生活年齢間に人数の差はみられるが、およそ20～30

名であった（表1）。

男女別に人数構成を見ると、最も差があったのは1歳4か月の男児14名、女児7名であった。1歳8か月は男女同数であり、他の年齢もほぼ同人数であった。

2. チェックリストの内容

調査で用いたチェックリストは品詞として名詞176語、動詞123語の他、代名詞、形容詞、形容動詞、副詞、感動詞などを含む、全語彙数452語（表記は成人語）であった。ただし、1歳0か月から1歳7か月児では、同チェックリストの短縮版（80語）を使用した。なお、今回の調査では、子どもがどのような言語概念を獲得し表出しているかを見ることを目的としているため、あえて、幼児語・成人語を区別しなかった。

3. 結果の分析

名詞（176語）語彙数に個人差が非常に大きく、平均値と標準偏差がほぼ同値になる年齢もあり、平均値は代表値としての意味が小さいが、先行研究の多くは代表値として平均値を用いているため、本研究でも比較のために各年齢における平均値を算出し、最小値と最大値を併記するとともに、総語彙数に占める割合を算出した。

またFenson, Dale, Renickら⁵⁾によるMacArthur Communicative Development Inventories（以下CDI）のInfant版の語彙カテゴリーを参考に、普通名詞（166語）を動物・乗物・おもちゃ・食物と飲物・衣類・体の部分・場所と部屋・家庭用品・人々に分類し、各年齢の平均値を算出し、各カテゴリーにおける上位3語を抽出した。さらに、各年齢における高頻度語を抽出した。なお、述語類に分類される性質、閉じた語に分類される代名詞、質問、場所・位置、数量については分析の対象から外した。

III. 結果

1. 全表出語彙数に占める名詞の割合

1歳0か月から1歳6か月は語彙の約70%以上が名詞であった。名詞の語彙数は年齢とともに増加しているが、1歳7か月以降は徐々に他の品詞が増え、全体に占める割合としては他の品詞より明らかに高いが、名詞の割合は減少していた。1歳7か月は62.2%（19.9語）、1歳8か月は59.7%（35.7語）、1歳9か月は57.4%（34.9語）、1歳10か月は53.5%（50.6語）、1歳11か月は51.5%（56.6語）であった。1歳7か月以降徐々に名詞の占める割合が減り、他の品詞の割合が増加した（図1）。

2. 名詞の年齢推移

名詞 176 語のうち、養育者が表出していると回答した語彙について、各年齢の名詞平均語彙数を算出した。

1歳0か月で表出されている名詞の語彙数の範囲は0語～7語で平均値 2.5 ± 2.0 語であった。1歳6か月で表出されている語彙数の範囲は3語～46語で平均値 15.8 ± 11.0 語であった。1歳11か月で表出されている語彙数は9語～148語で平均値 56.6 ± 40.0 語であった。

名詞の平均語彙数が10語を超えたのは1歳5か月、30語を超えたのは1歳8か月であった。1歳5か月以降、名詞数は増加し、3段階の急増が認められた。第一段階は1歳4か月から1歳5か月で3語から11語へ、第二段階は1歳7か月から1歳8か月で19.9語から35.8語へ、第三段階は1歳9か月から1歳10か月で34.9語から50.6語へと倍近くの増加を認めた。

名詞増加の第二段階は全表出語彙数が30語をこえる増加期（爆発的増加期）と一致していた（図2）。

3. 普通名詞のカテゴリ分析

普通名詞 166 語を「動物」「乗物」「おもちゃ」「食物

と飲物」「衣類」「体の部分」「場所と部屋」「家庭用品」「人々」に分類し、各年齢における平均語彙数を算出し、各年齢における上位5カテゴリを抽出した（表2）。また、9カテゴリにおける上位3語を抽出した。その結果、1歳0か月から1歳11か月まではほとんど上位のカテゴリに変化はなく、動物、人々、食物と飲物が大多数の年齢で上位を占めた。各カテゴリすべて年齢とともに語彙数が増加していた。1歳5か月までは、平均語彙数が1語を超えるのは上位2カテゴリであり、その他のカテゴリでは1語を超えることはなく0語のカテゴリもあった。しかし、1歳5か月以降、「動物」「人々」「食物と飲物」以外のカテゴリも徐々に増加を始めた。もっとも増加が遅かった下位カテゴリは「おもちゃ」「家庭用品」「場所と部屋」の3つであった。「場所と部屋」では1歳4か月まで0語、「家庭用品」では1歳5か月まで0語、「おもちゃ」では1歳6か月まで0語であった。

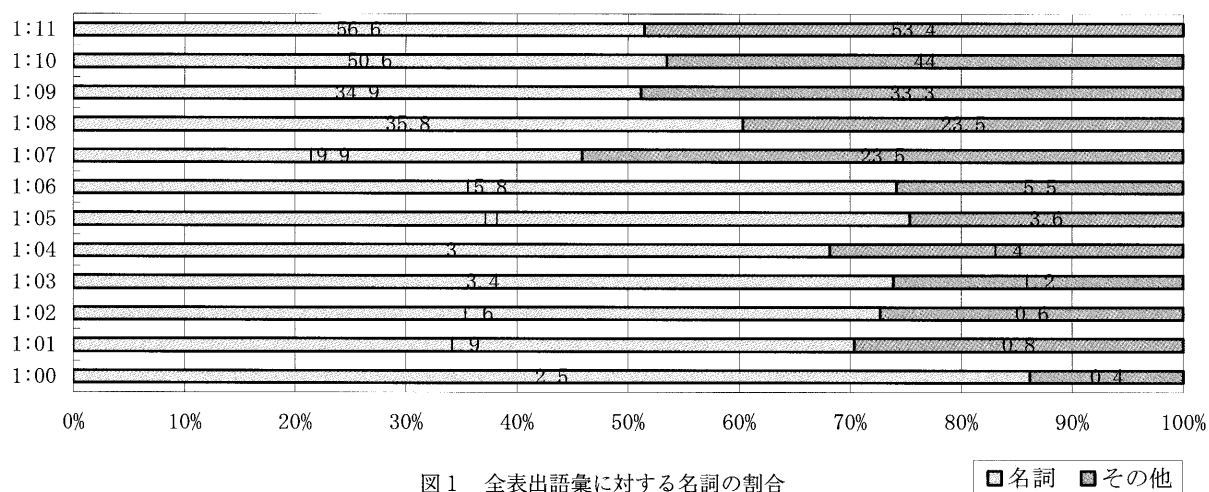


図1 全表出語彙に対する名詞の割合

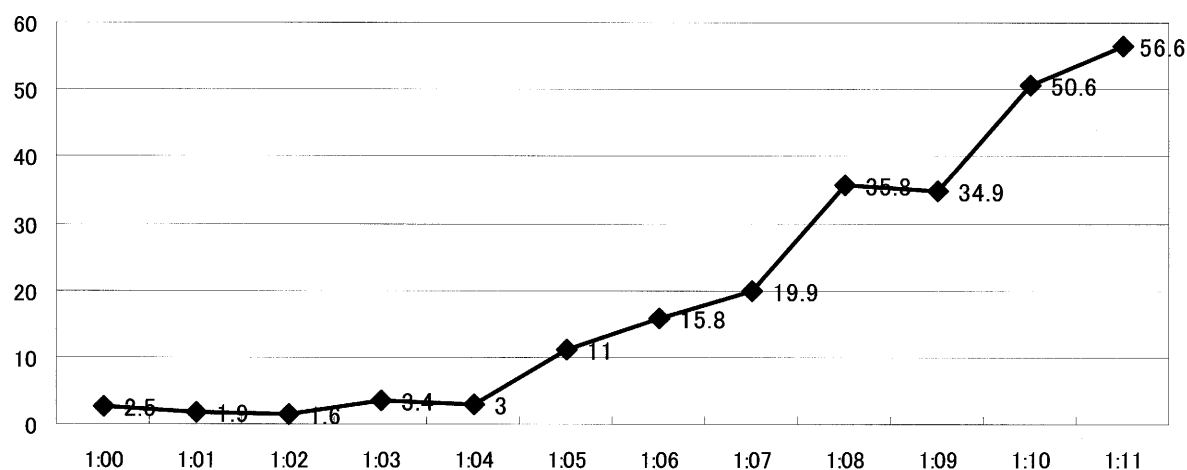


図2 名詞平均表出語彙数

増加特徴として、1歳4か月までは表出されている語彙カテゴリーは「動物」「人々」がほとんどであったが、1歳4か月から1歳5か月の第一段階では上記2カテゴリーの他、「体の部分」「食物・飲物」のカテゴリーの語彙が増加していた。また、1歳7か月から1歳8か月の第二段階では、場所と部屋以外の全カテゴリーで語彙の急激な増加が認められた。1歳9か月から1歳10か月の第三段階では第二段階と同様、場所と部屋以外の全カテゴリーで語彙の増加が認められた。また、場所と部屋についても他年齢より増加語彙数は多かった。

各カテゴリーの中で多かった語彙は、「動物」では「犬」「猫」が多く、ついで「豚」「象」「鳥」などが表出されるようになっていく。「人々」では「お母さん」「お父さん」が多く、ついで「お婆さん」「お爺さん」であった。「食物・飲物」では「ごはん」が多く、ついで「パン」「牛乳」「バナナ」であった。「乗物」では「車」「バス」「電車」であった。「体の部分」では「手」「鼻」「耳」「口」「目」であった。「おもちゃ」では「ボール」「絵本」「風船」であった。「衣類」では「靴」「帽子」「ズボン」であった。「場所と部屋」では「トイレ」「玄関」「庭」であった。「家庭用品」では「電話」「テレビ」「スプーン」であった。

4. 各年齢における高頻度語彙

今回分析の対象とした普通名詞166語の中から、子どもが表出していると養育者が回答した語彙上位10位(以

下、高頻度語彙)を抽出し、上位より順に記載した。なお、1歳3か月までは、表出語彙そのものが少ないため表出された全ての語を抽出した(表3)。

1歳0か月で表出されている語彙は8語であった。上位から「お母さん・車」「お婆さん」「犬」「ごはん」「豚」「お父さん」「猫」であった。

1歳1か月で表出されている語彙は14語であり、「ごはん」「犬」「車」「お母さん」「お父さん・お婆さん・猫・鳥」「お爺さん・牛・豚・鶏・ジュース・靴」であった。

1歳2か月で表出されている語彙は11語であり、上位から「ごはん」「犬」「お母さん」「猫」「車・牛乳・牛」「お父さん・お爺さん・お婆さん・ジュース」であった。

1歳3か月で表出されている語彙は21語であり、そのうち上位10位は「お母さん」「犬」「ごはん」「車」「お父さん」「猫・豚」「お爺さん・お婆さん・パン・靴」「鳥・狐・足・ちょう・目・バナナ・ジュース・手・ヘソ・帽子」であった。

1歳4か月で表出されている語彙は13語であり、上位10位は「犬」「お母さん」「車」「お父さん」「豚」「ごはん」「猫」「お婆さん・ちょう・靴」「電話・牛・お姉ちゃん」であった。

1歳5か月で表出されている語彙は58語であり、そのうち上位10語は「お母さん」「犬」「お父さん」「車」「お婆さん」「猫」「靴」「お爺さん・豚」「ごはん・目」「鼻・

表2 年齢別上位5カテゴリー

	1位	2位	3位	4位	5位
1:0	人々	動物	食物と飲物	—	—
1:1	動物	人々	食物と飲物	乗物	体の部位 衣類
1:2	動物	食物と飲物	人々	乗物	—
1:3	動物	食物と飲物	人々	乗物	体の部位 衣類
1:4	動物	人々	食物と飲物	乗物	衣類
1:5	動物	人々	体の部位	食物と飲物	乗物
1:6	動物	人々	食物と飲物	体の部分	衣類
1:7	動物	食物と飲物	人々	乗物	体の部分
1:8	食物と飲物	動物	体の部位	人々	衣類
1:9	動物	食物と飲物	体の部位	人々	乗物
1:10	動物	食物と飲物	人々	体の部分	衣類
1:11	動物	食物と飲物	体の部位	人々	衣類

手・パン」であった。

1歳6か月で表出されている語彙は60語であり、そのうち上位10位は「犬」「お母さん」「お父さん・猫」「車」「靴」「お婆さん」「お爺さん」「パン」「手」「豚」であった。

1歳7か月で表出されている語彙は63語であり、そのうち上位10位は「犬」「お母さん」「猫」「お父さん」「お婆さん」「車・靴」「ジュース・お爺さん」「ごはん」「豚・目」「牛乳」であった。

1歳8か月で表出されている語彙は134語であり、上位10位は「犬」「お母さん・車」「パン」「猫・お父さん」「靴」「ごはん」「象・バナナ・ボール」「ジュース」「手・耳・お婆さん」「お爺さん」であった。

1歳9か月で表出されている語彙は147語であり、上位10位は「車」「犬」「お母さん」「お婆さん」「靴」「猫」「鼻」「バナナ・お爺さん」「手・耳・牛乳・ごはん・パン・ジュース・お父さん」「象」であった。

1歳10か月で表出されている語彙は163語であり、上位10位は「お母さん」「犬」「車」「手・靴」「猫」「お父さん」「象・耳」「口・パン」「鼻・ジュース・バナナ」「牛乳・ごはん」であった。

1歳11か月で表出されている語彙は163種であり、上位10位は「犬」「お母さん・車」「手・靴」「象・牛乳・お父さん」「猫・バナナ」「かえる・頭・お婆さん」「パン・耳・ごはん・ジュース」「魚・鼻・帽子・ボール・バス・お爺さん」「口」「うさぎ・ちょう」であった。

1歳10か月および1歳11か月では、チェックリストに含まれる普通名詞166語に近い種類の語彙種であり、チェックリストの名詞数の上限にほぼ達していた。

Ⅳ. 考察

1. 年齢に伴う表出名詞数の推移

名詞の表出語彙数の平均及び全体の表出語彙数に占める割合は、1歳0か月から1歳11か月を通して、名詞が他品詞より優位になることはあったが、逆に他品詞が名詞に比べ優位になる年齢はなかった。他品詞の増加に変化が見られる時期は1歳7か月以降であった。これらのことより、1歳代は名詞優位であると考えられ、名詞が初期の語彙発達において非常に重要な位置を占めているといえる。

他の品詞に焦点を変え比較すると、1歳6か月までは70%以上が名詞であり、1歳8か月以降徐々に名詞の占める割合が減り、他の品詞が表出されるようになる。これは平均語彙数の増加する時期（語彙の爆発的増加）と一致していた。また、1歳7か月から1歳8か月は、名

詞の語彙数が増加する第二段階でもあった。

子どもは周囲のものを指して命名を求める段階を経て、2歳頃になると、語彙構造が変化し、名詞だけではなく、動詞・形容詞など状態を表わす語彙類が徐々に増加する⁶⁾。本調査で語彙の品詞構造に変化が見られ始めたのは1歳7か月であり、語彙の爆発的増加期以降であった。語彙の急増に関する仮説としては、「モノには名前がある」「全てのモノは名前をもっているはずだ」と子どもが洞察することにより生起するとの仮説や事物をカテゴライズする能力の発達の変化や表象能力の発達の移行を含む認知全般的变化によるとの仮説、音韻的な分節や構音能力の再体制化によるといった仮説が展開されている⁷⁾。このように、語彙の爆発的増加は子どもの認知や他者認識の発達など、様々な発達に関連して生じる現象であるといわれており、言語獲得の前提となる認知の発達があると考えられている。このことから、語彙の爆発的増加期には何らかの認知的発達の変化も起こっていることが推測され、そのことが品詞構造の変化をもたらすと考えられる⁸⁾。

2. 表出語彙における普通名詞のカテゴリーと高頻度語

語彙の意味カテゴリー別の分析は、先行研究でもなされており、小椋らは日本の子どもが産出する語彙の意味分野の発達を明らかにするためにC D Iの語彙のカテゴリーを使用し、横断的に語彙の意味分野の変容を調査した⁷⁾。その結果、1歳0か月で2人以上に出現した意味カテゴリーは「動物」「人々」「インタラクション語（肯定語・否定語）」であった。1歳3か月になると「食物・飲物」「性質」「動作」が追加されたとしている。また、小椋らは動物の名前、乗物、おもちゃ、飲食物を合わせた子どもの語彙数の増大が、21か月から24か月にかけて著しいことを報告している⁹⁾。

このように、名詞・動詞・形容詞・形容動詞・副詞・感動詞などさまざまな品詞を含めた意味カテゴリーの調査は、子どもの獲得語彙の発達の特徴をより明らかにすることができる。

今回の分析においては、「動物」「人々」「食物と飲物」が大多数の年齢で上位を占めた。「人々」のカテゴリーでは「お母さん」「お婆さん」「お父さん」「お爺さん」の順に表出されるようになり、「お兄ちゃん」「お姉ちゃん」と続く。この順序は子どもにとって心理的距離の近い人物から出現していると考えられ、子どもの対人的認知の発達を反映しているといえる。「動物」「食物・飲物」の意味カテゴリーの語彙は、子どもの生活に関係が深く、子どもが興味を持った対象名が出現しているといえる。

「初語（first words）」のカテゴリーは、どの言語でも

表3 年齢別高頻度語彙

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1:0	お母さん 車	お婆さん	犬	ごはん	豚	お父さん	猫			
1:1	ごはん	犬	車	お母さん	お父さん お婆さん 猫, 鳥	お爺さん 牛, 豚, 鶏 ジュース, 靴				
1:2	ごはん	犬	お母さん	猫	車, 牛乳, 牛	お父さん お爺さん お婆さん ジュース				
1:3	お母さん	犬	ごはん	車	お父さん	猫, 豚	お爺さん お婆さん パン, 靴	鳥, 狐, 足 ちょう, 目 バナナ, ジュ ース, 手, ヘ ソ, 帽子		
1:4	犬	お母さん	車	お父さん	豚	ごはん	猫	お婆さん ちょう 靴	電話, 牛, お姉ちゃん	
1:5	お母さん	犬	お父さん	車	お婆さん	猫	靴	お爺さん 豚	ごはん 目	鼻, 手 パン,
1:6	犬	お母さん	お父さん 猫	車	靴	お婆さん	お爺さん	パン	手	豚,
1:7	犬	お母さん	猫	お父さん	お婆さん	車, 靴	ジュース お爺さん	ごはん	豚, 目	牛乳
1:8	犬	お母さん 車	パン	猫 お父さん	靴	ごはん	象, バナナ ボール	ジュース	手, 耳 おばあさん	お爺さん
1:9	車	犬	お母さん	お婆さん	靴	猫	鼻	バナナ お爺さん	手, 耳, 牛乳, ごはん, パン ジュース, お父さん	象
1:10	お母さん	犬	車	手, 靴	猫	お父さん	象, 耳	口, パン	鼻, ジュース バナナ お婆さん	牛乳 ごはん
1:11	犬	お母さん 車	手, 靴	象, 牛乳, お父さん	猫 バナナ	かえる, 頭 お婆さん	パン, 耳 ごはん, ジュース	魚, 鼻, 帽子 ボール, バス お爺さん	口	うさぎ, ちょう

ほぼ共通であり、ヒト、動物、食べ物、乗物、体の一部、挨拶などのことばが多いとされる。また、最初の50語を調べてみると、「靴」「犬」のような事物名称は語彙の中で最も多く、平均40%を占めるという¹⁰⁾。

ある調査結果によれば、初語の第1位は食物で、第2位が母親、第3位が父親、以下動物・あいさつ・乗物で続き、子どもが親しみやすく発音しやすいことばが、初語としては高い頻度で出現するとされる¹¹⁾。

今回の調査でも初期に表出される語彙でもっとも高頻度で使用されているカテゴリは「動物」「人々」「食物・飲物」のような事物名称であり、「犬」「お母さん」「ごはん」「車」などの日常生活に結びついた具体的な語彙が高かった。

3. 初期に出現するカテゴリと語彙の要因

名詞のカテゴリの発達は、先行研究のカテゴリ出現順序とかなり共通しており、年代をこえて共通のものがあることが示唆された。このことについてはいくつかの要因が考えられる。

ことばを獲得するための条件は、他人との交わり、つまり、言語環境と知能、模倣力、発語器官の構造や機能、聴力であるとされる¹²⁾。このことを基本に、松波はことばを獲得する過程での重要な条件は、愛着関係、興味や探索心、模倣、発語器官の発達、弁別能力、であるとしている¹³⁾。ことばを表出するためには、乳児期からの豊富な経験が基盤となっており、特に母親とのことばのやりとりを通して、理解言語や表出言語を獲得していく。

このことをふまえると本調査のカテゴリの発達は子どもの認識の発達や養育者からの言語入力とも密接に関わっていると考えられる。村瀬らは養育者の育児語使用傾向について、擬音語擬態語、音単位の重畳、接尾辞の付加、接頭辞の付加、汎用、音の省略・転置という特徴を持つ育児語を使用していると述べている¹⁴⁾。また、育児語の言及対象・事象は、動物、乗物、飲食物、衣類、身体各部、動作、性質などさまざまな対象・事象に及んでいたとしている。この結果は今回の1歳代の子どもが表出している意味カテゴリとはほぼ一致していた。

早川は育児語の特徴である、音単位の重畳は音声操作の獲得において、汎用は表象・概念形成において、擬音語擬態語はシンボルの形成において重要な役割を果たしている¹⁵⁾。この考えに立つと、音単位の重畳は反復喃語の延長として子どもにとって学習しやすい、擬音語擬態語は音声とそれによって表わされる対象が類似しておりその関係が捉えやすい、汎用に見られるような概括化の方が初期言語の獲得期の子どもにとっては捉えやすいということから、育児語語彙の使用は初期言語獲得期

の子どもの言語獲得に有利に働く可能性があるとして述べている。このことから養育者の使用語彙と子どもの早期獲得語彙には関係があると推察される。

また、子どもはたいていの場合、表出言語よりも理解言語の獲得が先行し、その数は理解語彙の方が何十倍も多いといわれている。子どもはことばを使い始めた頃は、さまざまなものをひとつの言葉で表現する「語の拡張」が見られるため、表出語彙数が理解語彙数とはいえない側面があるが、少なくとも、表出された語彙についてはそれ以前に理解されていることが前提にあると考えられる。

IV. おわりに

本稿では、1歳0か月から1歳11か月の子ども310名の「語彙チェックリスト」のデータ分析を行ない、年齢における名詞語彙数の推移の傾向、カテゴリ別語彙数、および年齢別語彙の獲得順序について検討した。その結果、年齢と名詞語彙数の関係、早期に獲得されるカテゴリ、および年齢別語彙の獲得順序の3点が明らかとなった。

名詞が表出語彙に占める割合が高いこと、年齢とともに名詞語彙数は増加するという特徴が見出された。カテゴリについては1歳代通して「動物」「人々」「食物と飲物」が上位を占め、各年齢が獲得し高頻度に使われている語彙は事物名称であり、子どもの日常生活に結びついた具体的な語彙であった。

早期に獲得される語彙の要因として環境的な影響がかなりあることが推測されるため、養育者の育児語使用傾向との関係を検討する必要がある。また、表出語彙とともに、理解語彙についても検討する必要がある。

子どもがどのように語彙を獲得していくかを明らかにすることによって、乳幼児健診でのスクリーニングの基準値がえられ、また、発達に遅れのあり対応が必要な子どもの指導においても、語彙発達の構造を知ること段階的な指導ができると考えられる。今回の調査もそのひとつの手がかりとなりえると考えられた。

また、名詞以外の品詞についても同様の分析を行なう必要がある。それらの結果をふまえ、発達評価の指標となりうる語彙数および品詞別語彙、語彙の使用頻度について検討する必要がある。

V. 文献

1) 藤原雅子、今給黎禎子、安川千代、ら(2005) 1歳

- 代の言語発達－1歳0か月から1歳11か月の表出語彙. 九州保健福祉大学紀要, 6, 235 ~ 241
- 2) 岩本さき, 笠井新一郎, 荻田知則, ら (2000) 2歳児相談における事前問診語彙チェックリスト作成の試み－1歳11か月から2歳11か月の全使用語彙－. 高知リハビリテーション学院紀要, 2, 23 ~ 29
 - 3) 荻田知則, 笠井新一郎, 岩本さき, ら (2000) 2歳児相談における事前問診語彙チェックリスト作成の試み－文法カテゴリーによる分析: 名詞－. 高知リハビリテーション学院紀要, 2, 33 ~ 39
 - 4) Gentner, D. (1982) Why nouns are learned before verbs: Linguistic relativity versus natural partitioning. In S. A. Kuczaj (Ed.), *Linguistic development: Vol. 2. Language, thought, and culture*, Pp. 301 ~ 334 Hillsdale, NJ: Erlbaum.
 - 5) Fenson, L., Dale, P., Reznick, J. S., Thal, D., Bates, E., et al.: *The MacArthur Communicative development inventories: Users guide and technical manual*. San Diego: Singular Publishing Group.
 - 6) 大石敬子 (2001) ことばの障害の評価と指導. 大修館書店, 東京
 - 7) 小椋たみ子, 中則夫, 山下由紀恵, et al (1997) 日本語獲得児の語彙と文法の発達: Clan プログラムによる分析. 神戸大学発達科学部研究紀要第4巻2号, 31 ~ 57
 - 8) 小山正 (1999) 子どもの言語獲得とそれを支える認知発達. 聴覚言語障害, Vol 28 No 2, 87 ~ 95
 - 9) 小椋たみ子, 山下由紀恵, 村瀬俊樹 (1998) 初期言語発達インベントリーの妥当性および語彙チェックリストの検討. 神戸大学発達科学部研究紀要第5巻2号, 261 ~ 276
 - 10) 小椋たみ子 (1999) 初期言語発達と認知発達の関係. 風間書房, 東京
 - 11) 河田道敏 (1997) 初語獲得の言語指導. 柚木馥編著, コレール社, 東京
 - 12) 岡本夏木 (1982) 子どもとことば. 岩波新書, 東京
 - 13) 松波和子 (1997) 初語獲得の言語指導. 柚木馥編著, コレール社, 東京
 - 14) 村瀬俊樹, 小椋たみ子, 山下由紀恵 (1998) 育児後の研究 (2). 社会システム論集第2号, 79 ~ 104
 - 15) 早川勝広 (1981) 育児語と言語獲得. 言語生活, 351, 50 ~ 56